



Title	日本語とベトナム語の自称詞と対称詞に関する比較 : 人称代名詞と親族名称を中心に
Author(s)	ヴァー, ティ・トゥ・タオ
Citation	大阪大学言語文化学. 2009, 18, p. 183-195
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77833
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語とベトナム語の自称詞と対称詞に関する比較

一人称代名詞と親族名称を中心に—*

ヴー・ティ・トゥ・タオ**

キーワード：自称詞・対称詞、人称代名詞、親族名称

In language communication, it is important for the speaker to know how to refer to himself and his listener. In both Japanese and Vietnamese, people use many kinds of words such as personal pronouns, kinship terms, names, occupation names...in address and self-reference. Terms for self and address terms are chosen in accordance with the relationship between the speaker and the addressee, their sex, age ...In addition, the choice of terms for self and address terms reflect their position, the attitude of the speaker towards the addressee and sometimes the change of feeling to the addressee.

Although common points are seen in the kinds of terms for self and address terms, there are many different points in the usage of these terms between the two languages. The difference of the use of the personal pronoun will be a good example. For example, in the Japanese, it is common to use the first person pronoun such as *watashi*, *boku* to your family, but it is considered to be extremely rude to use first person pronoun to your family in Vietnamese.

In this thesis, I deal with the analysis and compare of the usage of the Japanese and Vietnamese personal pronouns and kinship terms. And then I tried to explain the social way of thinking, self-knowledge...which are covered in these expressions.

1. はじめに

自称詞・対称詞は、研究者の目的によって様々に定義されている。基本的な定義としては、会話において、話し手が自分自身に言及する言葉を自称詞、話し相手に言及したりする言葉を対称詞という。多くの言語において、会話の中で、自称詞・対称詞として、

* Comparison of Terms for Self and Address Terms in Japanese and Vietnamese: Based on the Personal Pronoun and Kinship Terms (VU, Thi Thu Thao)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

人称代名詞のみが使われるのではなく、職業名、固有名、親族名称なども用いられ、さらに話し手と話し相手の関係、性別、年齢などに応じて自称詞・対称詞を使い分ける現象が見られる。日本語とベトナム語もそのような言語に含まれる。つまり、両言語において、自称詞・対称詞の使用によって話し手が相手との上下、親疎、内外といった関係を確認し、相手に対しての尊敬、親愛、態度・姿勢、ときには感情の変化も表される。

日本語とベトナム語の自称詞・対称詞の種類には一般的に共通点が見られるものの、特定の間関係、場面においては、自称詞・対称詞の使用範囲の分かれ方が異なっている。人称代名詞の使用範囲の相違点がそのよい例であろう。さらに、日本語の人称代名詞はベトナム語と比べると、きわめて多く、使い方もそれぞれによって違う。

そのため、ベトナム人日本語学習者が日本語の生の会話やドラマ・文学作品に触れるとき、日本語の多様な自称詞・対称詞の体系に気がつき、どのように日本語の多様な自称詞・対称詞を理解していったらよいかという問題と直面する。とりわけ、翻訳の領域では、日本語の自称詞・対称詞はどんなベトナム語の対称詞と相当するか、どのようにベトナム語に訳せばよいかも大きな問題である。日本語とベトナム語の自称詞・対称詞はただ意味論上の説明だけでなく、使用法を通じた社会言語学の立場から説明する必要もあると考えられる。

以上の問題意識に基づき、本論は主にベトナム語に翻訳された日本の小説やドラマ、逆に日本語に翻訳されたベトナム小説やドラマをデータとして使用することにした。それらのデータの中で、日本語とベトナム語における自称詞・対称詞がどのような様相を呈し、どのような場面でどのように使い分けられるかを考察し、共通点と相違点を明らかにする。

2. 日本語とベトナム語の自称詞・対称詞の有様と用法

両言語において、人称代名詞、親族名称、固有名、地位・職業名、年功序列表現、指示詞が自称詞・対称詞として使われている。中身は別として、自称詞・対称詞の種類のみを見れば、両言語の自称詞・対称詞の有様にはかなりの共通性が見られる。にも関わらず、それぞれの自称詞・対称詞の種類は同じ種類でありながら、量的な多さ、各の種類の成分の性格が違ふところも多くあるということである。

両言語の自称詞・対称詞として使われている言葉は様々な分類されているが、本論においては両言語の人称代名詞と親族名称に焦点を当てて比較し、分析することにする。

2. 1 人称代名詞と親族名称

三輪（2005）によれば、日本の古代から現代までの文献に出てくる一人称が計 51 個、

二人称が計 81 個ある。数が多い日本語の人称代名詞と比べると、ベトナム語の一人称代名詞は *tôi* と *tao* で、二人称代名詞は *mày* だけであり、数が非常に少ない。三輪 (2000) は人称代名詞を左右するファクターについて、「多くの自称詞、対称詞をもつ日本語では、それらの間の選択の意味論は極めて複雑になる」と述べている (三輪 2000 : 41)。二人称代名詞について、長尾 (2005) では日本語の二人称代名詞はいずれも、なんらかの待遇表現の意味がついてまわるので、だれにでも使える言葉がない。鈴木 (1973) では親族同士の対話においては、話し手は下の人に人称代名詞で呼びかけたり、言及したりできるが、上の人にはできないから、普通は親族名称で呼ぶ。ベトナム語に関する研究でも、ベトナム語の人称代名詞はマイナスの表情を持っているので、あまり使われていない。そのため、日常の会話において、人称代名詞のかわりに、親族名詞を使うのは一般的である (Luong : 1990)。

基本的に、一人称代名詞 *tôi* は対等の人に対して、感情を表さない時の自分を指す言い方であり、*tao* は対等以下の人に対して、親密さ、または相手を侮る態度を表す時の自分を指す言い方、というように説明されている¹⁾。また、ベトナム語にひとつしかない二人称代名詞 *mày* は失礼で相手を侮る機能が働いている²⁾。そのため、公の場では当然ながら、まったく使われていない。

つまり、人称代名詞に関しては両言語とも使う際に様々な制約を受ける。また人称代名詞の代わりに、親族名称や職業名などが自称詞・対称詞として用いられているという習慣は日本語にもベトナム語にも見られる。

2. 2 夫婦間

夫婦間では、日本語においてもベトナム語においても、子供・孫の有無、年齢、夫婦の感情の度合いなどによって、様々な自称詞・対称詞が使われている。親族名称も使われている。

子供がまだいない夫婦間で、日本語ではお互いに名前、人称代名詞などと呼んだり、称したりする。それに対して、ベトナム語では、年齢を問わず、一般的に、兄妹間のように、夫は妻に対して、自分のことを年上の兄弟を意味する親族名称 *anh* (兄) と称し、妻のことを年下の兄弟を意味する親族名称 *em* (弟・妹) と呼んでいる。妻は逆に夫に対して、自分のことを *em* と称し、夫のことを *anh* と呼んでいる。

- (1) a. 少なくとも 君 ほどはあの猫のことは好きじゃなかったかもしれない。

『ねじまき鳥と火曜日の女たち』(p.219)

¹⁾ Từ điển tiếng Việt (1988) (ベトナム語辞典)、Nhà xuất bản khoa học xã hội (社会科学出版社)

²⁾ Từ điển tiếng Việt (1988, p.640) (ベトナム語辞典)、Nhà xuất bản khoa học xã hội (社会科学出版社)。

b. Có thể anh không thích con mèo ấy bằng em thật.

自³⁾ 否定詞 指示詞 比較副詞 対⁴⁾ 語気詞

おそらく 兄 ~ない好き 猫 あの ほど 弟・妹

『Chim vặn dây thiều và phụ nữ ngày thứ ba』 (p.349)

子供や孫がいる夫婦間で、両言語の対称詞に鈴木（1973）の親族名称の虚構的用法の第二種が見られる。つまり、日本語では、子供の立場にたって、相手のことを「おじいさん」、「おばあちゃん」と呼ぶことができる。ベトナム語でも、ông（祖父）、bà（祖母）というような親族名称で相手と呼ぶことができる。

日本の夫が妻のことを「きみ」「おまえ」と呼び、ベトナムの夫が妻のことを em（弟・妹）と呼ぶことから、両言語においても、妻が目下の人とみなされ、社会的な男女の性差の要因もまだ根強く残っているとも考えられる。

2. 3 親族内における自称詞と対称詞の用法

ここでは、自己を中心に、自分より上の世代に属するものを目上、下の世代に属するものを目下、自分と同じ世代の者との間では、年齢の上下を目上目下を指し、考察する。

両言語においては目上の人を親族名称で呼ぶことができる。また目上の方は自分のことを親族名称で称することもできる。

例えば、日本語では、祖父母のことを「お祖父さん」「祖母ちゃん」といった親族名称で呼んでいる。ベトナム語でも、それぞれ ông（祖父）、bà（祖母）という親族名称で呼んでいる。また、配偶者の祖父母・父母に対しても、自分の祖父母・父母を呼ぶときに使う同じ親族名称で呼ぶことで、両国で姻戚について同じ考えが見られる。

しかし、日本語においては、目下の人を親族名称で呼ばない。また目下の方は自分のことを親族名称で称することもしない。それに対して、ベトナム語においては、目下の人に親族名称で呼ぶことも、目下の方が自分のことを親族名称で称することも、極めて一般的である。簡単に言えば、ベトナムの親族間における対話では、話し手が呼ばれる名称で自分を称している。つまり、cháu（孫）と呼ばれる話し手は自分を cháu と称する。

(2) a. おまえも響子の娘なら簡単に仕事を逃げ出すまねはするな。

b. Bởi vì cháu là con gái của Kyoko... (省略)

対 助詞

～から 孫 は 娘 の 響子

³⁾ 自：自称詞

⁴⁾ 対：対称詞

(3) a. おじいちゃん、私はやっぱり自分のやったことは無責任だったと思う。

b. Ông ơi, cháu hiểu việc mình làm thật là vô trách nhiệm.

対 呼びかけ語 自

助詞

祖父 孫 わかる こと 自分 やる 本当に は 無責任

『さくら』

ただし、日本語は親族名詞では父方と母方を区別しているが、親族名称ではそのような区別をしていない。それに対して、ベトナム語では前述したように、父方と母方を区別することとともに、父の父母に対してはそれぞれを ông nội, bà nội と呼び、母の父母に対してはそれぞれを ông ngoại, bà ngoại を呼ぶ場合もある。また、主要素を省き、父の父母のことを nội (内)、母の父母のことを ngoại (外) と呼ぶ場合も少なくない。

(4) Ngoại thương cậu như vậy, sao không theo cậu?

対

外 愛している おじ そんなに なぜ ない ついて行く おじ

(お祖父さんはそんなにおじさんを愛しているのに、なぜついて行かないの?)

『Ông ngoại』

日本語よりもベトナム語の方が父系・母系を必須的に弁別し、婚姻関係を重視していることが見られる。例えば、日本語では父の妹、母の妹、父の弟の妻、母の弟の妻をすべて「叔母さん」と呼んでいる。それに対して、ベトナム語では父の妹を cô、母の妹を dì、父の弟の妻を thím、母の弟の妻を mợ という4つの親族名称で呼んでいる。

また、日本語では、話し手が自分のことを親族名称より、一人称代名詞で称するのほが多くある。つまり、日本語では話し手が目下に対する場合は、目上に対する場合と較べると、自称詞の選択はほぼ同じであり、一人称代名詞で称する傾向がある。それに対して、ベトナム語は、一人称代名詞を用いるのは怒りの場合のみ見られる。例えば、以下の表は『ファミリーアフェア』の主人公の一人称代名詞と親族名称の使用頻度を表す。

表 村上春樹 (1989) 『ファミリーアフェア』の主人公の一人称代名詞と親族名称の使用

相手	日本語		ベトナム語訳	
	一人称代名詞	親族名称	一人称代名詞	親族名称
母	ぼく (2)	0	0	con (子供) (8)
妹	ぼく (16)	0	tao (1)	anh (兄) (36)
恋人	ぼく (3)	0	0	anh (兄) (6)
妹の婚約者	ぼく (2)	0	tôi (9)	0
合計	23	0	10	50

子供の配偶者に対する対称詞については、ベトナム語では、嫁や女婿に対して、二人称代名詞 *mày* を用いていないが、自分の子供のように *con* (子供) と呼んでいる。日本語では二人称代名詞の以外に、家族外の人に対するように、「名前+さん」と呼んでいる。ここで自称詞・対称詞の用法が、日本人の方が血族と姻族の区別をかなり意識することを示す。

2. 4 親族外における自称詞・対称詞の用法

2. 4. 1 親しい間柄及びくだけた場における自称詞・対称詞

親しい間柄及びくだけた場において、両言語の自称詞・対称詞には人称代名詞、親族名称、固有名前などが見られる。

血縁関係のない人に対し、親族名称を使って呼びかけることを、人類学では親族名称の虚構的用法という。日本語では相手のことのみならず、自分のことをも親族名称を用いて示すことができる。親族名称の虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点とし、相手がもし自分の親族であれば、どの位置に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族名称を対称詞または自称詞に選ぶのである(鈴木、1973: 159)。

だが、以上の両言語の自称詞・対称詞の有様を見れば、日本語でごくわずかな親族名称使用が見られる。それに対して、ベトナム語ではかなり広範な親族名称使用が見られる。親族内における親族名称の使用のように、日本語では、「おじいさん」、「おにいさん」など家族で目上の人という概念を含む親族名称は自称詞・対称詞として使われているが、目下の人という概念を含む言葉は自称詞・対称詞として使われていない。それに対して、ベトナム語では、前者も後者も自称詞・対称詞として使うのは一般的である。丁寧に相手を表す二人称代名詞がない、また話し手を表す一人称代名詞の使用が制限されているため、当然ながら、親族名称を用いて話し手および話し相手を示すことが主になると考えられる。

まず、自称詞について、日本語では目上の人という概念を含む親族名称は自称詞として話し相手が子供である場合のみに見られる。大多数の場合は、同等以下の人に対しても、目上の人に対しても、女性であれば、「わたし」と自称し、男性であれば、「ぼく」、「おれ」と自称している。それに対して、ベトナム語の場合は自称詞の選択は話し手と話し相手の上下関係・性差などに影響されている。丁寧な一人称代名詞 *tôi* はまったく現れていない。ぞんざいな一人称代名詞 *tao* は同下位者のみに対して用いられている。

同等関係の以外に、全ての自称詞は親族名称であるということはベトナム語の一つの特徴と言えよう。つまり、目上の人に対して、自分のことを家族で目下の人という概念を含む親族名称で称し、目下の人に、家族で目上の人という概念を含む親族名称で称し

ている。例えば、(5) のように、『虚構の樂園』で、主人公が近所の人に対して、自分のことを cháu (孫/甥・姪) と称し、また、(6) のように、近所の人も主人公に対して、自分のことを cô と称している。

- (5) a. Lâu quá cháu chưa về nhà. Có chuyện gì thế cô ?

自

対

長いこと 甥・姪 ~ない 帰る 家 ある こと 何 叔母

- b. 長いこと家には帰ってないの。ところで何かあったの？

- (6) a. Cô tìm cháu suốt từ lúc tan tầm.

自

対

叔母 探す 甥・姪 ずっと ~てから 仕事が終わる

- b. 仕事が終わってから、ずっとあんたの事を探していたのよ。

『*Những thiên đường mù*』(章 7)

『虚構の樂園』(p.237)

対称詞においては、目上の相手に対して、二人称代名詞の使用は見られない。という事は両言語の共通点である。両言語では、親族名称の使用が見られるが、全ての目上の相手のことを親族名称、または「親族名称+名前」で呼ぶベトナム語と違い、日本語では、親族名称の使用頻度が少ない。

日本語では、同等の相手に対しての呼び方と目下の相手に対しての呼び方はほぼ同じである。つまり、同等に対しても、目下の相手に対しても、名前や「あなた」、「あんた」、「きみ」、「おまえ」の二人称代名詞の使い分けが見られる。

それに対して、ベトナム語では、同等の相手に対しての呼び方と目下の相手に対しての呼び方は違う。同等の相手のことを bạn (友達)、名前呼び捨て、二人称代名詞 mày と呼んでいるが、目下の相手のことを家族で目下の人という概念を含む親族名称 cháu (孫)、con (子供)、em で呼んでいる。家族で目上の人という概念を含む親族名称も、目下の人という概念を含む親族名称も対称詞として使われている。どんな親族名称を選択するのは相手の年齢によるので、ベトナム人は初対面でもよく相手の年齢を聞く習慣があるのはそのためだろう。

2. 4. 2 疎遠な関係及び改まった場における自称詞・対称詞

改まった社会的な状況で行われる対話において、以上の親しい関係に用いられた自称詞・対称詞と較べると、日本語の場合は、まったく親族名称の使用が見られないようになった。ベトナム語ではまだかなり広範な親族名称の使用が見られる。

まず、自称詞については、日本語では「おれ」の使用が見られなく、「わたし」「わた

くし」「ぼく」が使われ、ベトナム語では、丁寧な一人称代名詞 *tôi*、または親族名称 *cháu* (孫) が使われている。

日本語では、私的な「わたし」には女性的なニュアンスがあるが、改まった場では性の問題をせず、女性も男性も「わたし」を使う場合が多くある。初対面など距離をおく場面では女性はもちろん、男性も「わたし」を使っている。

(7) a. これが、私が本田さんから岡田様あてにお預かりした形見の品であります。

『ねじまき鳥クロニクル』(p.244)

b. Đây là kỷ vật mà ông Honda nhờ tôi chuyển cho ông.

一人称代名詞 助詞 対

これ は 形見 本田さん 頼む 渡す に 祖父

『Biên niên ký chim vặn dây cót』(p.157)

ベトナム語では、改まった場で、もっとも拡大して使われているのは一人称代名詞 *tôi* であるが、親族名称 *cháu* (孫) の使用も見られる。*cháu* (孫) は話し手が子供、または 20 代の若者であり、話し相手が年配である場合によく見られる。考察しているデータには、子供や若者が目上に対して、*tôi* を使う場合がまったく見られない。

(8) a. Cháu phải đi, bà Vera ạ.

自 助動詞 対 尊敬を表す語気詞

孫 ~なければならない 行く 祖母 名前

『Những thiên đường mù』(章 1)

b. 行かなきゃならないんです、ベラさん。

『虚構の楽園』(p.7)

この用法の特徴はどのように考えればよいのだろうか。Đỗ Long (1990) によると、*tôi* は自己主張の意味合いを持っている。つまり、まだ自己主張を意識しない人物は *tôi* を使うことが出来ないだろう。そのため、ベトナムでは、自己主張を勧め、大学生に一人称代名詞 *tôi* を使わせようという意見が多くある。Vietnamnet という新聞が行った調査で「なぜ目上に対して *tôi* を使わないか」という質問に、「*tôi* と称するのは冷たくて、失礼と感じる」と答えられている⁵⁾。つまり、丁寧体や尊敬語で敬意を表す日本語に対して、ベトナム語では、親族名称で親密さを表すことが大切であろう。

次に、対称詞について、日本語では性差、年齢の要因に支配されずに、「名前+様」、「名前+さん」、就職名、先輩、代行名(先生)といった使い分けが見られる。

ベトナム語では、以上の例(8b)のように、相手の地位にかかわらず、相手が老人

⁵⁾ Thu Hương, Dạy sinh viên xưng "tôi" (大学生に *tôi* を使わせよう)、
http://www.vietnamnet.com.vn

の男・女であるならば、それぞれ ông (祖父)・bà (祖母) と、若い男・女であるならば、anh (兄)、chị (姉)、cô (おば) という家族の目上の人の概念を含む親族名称が対称詞として用いられるのは一般的である。つまり、改まった社会的な状況でも、相手の性別・年齢を判断し、以上の5つの親族名称の中の1つを選んで相手と呼んでいる。また、相手の名前に親族名称を付けて相手と呼ぶのが一般的である。つまり、ベトナム語では親族名称が「さん」付け表現として使われている。

また、日本語では、生徒の父・母のことを「お父さん」、「お母さん」と呼ぶことは多いが、その言語現象はベトナム語にまったく見られない。つまり、日本語では、生徒の立場になって、自分が相手の子供として、相手を「お父さん」、「お母さん」と呼ぶが、ベトナム語では、自分の立場から、相手の性別・年齢を判断し、以上の家族の目上の人の概念を含む親族名称で相手と呼んでいる。

渡辺 (1978) は「親族名の年齢階梯語化」という言語事象を挙げ、「日本語の標準語や各地方語では、祖父・祖母・おじ・おば・兄・姉・むすめを意味する個人親族語を、それぞれ老人の男・女、中年の男・女、それに若い女を意味する年齢階梯語語としても使用する」と説明した (渡辺、1978: 34)。

ここでのベトナム語の自称詞・対称詞の用法は渡辺 (1978) の年齢階梯語化についての説明にあたると考えられる。つまり、改まった場では、ông (祖父)、bà (祖母)、anh (兄)、chị (姉)、cô (おば) の社会的な意味合いが変わり、それぞれ老人の男・女、若い男・女を意味する言葉として用いられる。また、ここでの自称詞・対称詞の用法がベトナム社会の目上、目下のような厳格な年齢差の原理を重視することを示すと言えよう。

2. 5 心理に左右される自称詞・対称詞用法の変化

ここで話し手の心理的な状態に左右される自称詞・対称詞の用法の変化を見てみよう。両言語に心理的な状況によって自称詞・対称詞が変化する現象は見られるが、自称詞・対称詞の性質が違う問題のため、翻訳ではその自称詞・対称詞の変化による感情の変化が現れていないこともよくある。

『さくら』で、さくらという主人公は中学校の先生で、大介という生徒の家に泊まっている。筆子というその生徒の母は普段、さくらのことを「先生」、または「さくら先生」と呼んでいる。しかし、さくらに対し不満がある筆子が酔っぱらったシーンで、さくらのことを「あんた」に切り替えている。

(9) 私ね、前からいたことがあったんよ、あんたに。

「あんた」と指され、さくらはショックを受けたような顔をし、(10) のように聞き返している。

(10) あんた！？

『さくら』

しかし、この発話はベトナム語訳では省略されている。この場合の「あんた」は処理できないため、翻訳を避けたと考えられる。それによって、日本語の対称詞の変化による感情の変化、その変化に驚いたことを感じるができない。ベトナムでは、教師に対し、ぞんざいで相手を侮る機能が働く二人称代名詞 *mày* を使うことは許されないため、適当な言葉が見つからないためであると考えられる。日本語で (10) のような場合、「先生」から「あんた」に切り替えるのは感情、親疎関係が変わった証拠であるが、ベトナム語訳ではこれに関する発話が省略されているので、日本語の対称詞変化による感情の変化が現れていない。

『虚構の楽園』では、主人公の母が普段、主人公に対して自分のことを *mẹ* (母) と称しているが、非常に怒る場面において、親族名称 *mẹ* がぞんざいな一人称代名詞 *tao* に変わっている。読み手はこの変化によって感情の変化を感じ取ることができるが、日本語訳では (11b) のように、そのような自称詞の変化によって、感情の変化を表わすことができない。

(11) a. Không. Tao đã bảo không là không.

一人称代名詞 過去を表す副詞 助詞

だめ ～た 言う だめ は だめ

『Những thiên đường mù』(第7章)

b. だめよ！だめと言ったら、絶対だめなの！」

『虚構の楽園』(p.216)

また、(12) のように、主人公と母の関係が冷めたものとなり、主人公の母が「私はもうあなたの母ではない」というような冷淡な気持ちを表すために、*mẹ* (母) から *tôi* に切り替えている。

(12) a. Tôi không dám đụng đũa vào phần người khác.

一人称代名詞 否定詞 助詞

私 ～ない あえる 手を出す に 分 他の人

b. 「人様のものにまで手を出そうとは思わないわ。」

『虚構の楽園』(p.227)

このように、一人称代名詞 *tôi* に切り替えるのは親しいという気持ちから冷淡な気持ちに変わった印である。つまり、ベトナム語では、人称代名詞に切り替えるのは話し手の心理的状態の変化の印と言えよう。このような場合も日本語訳ではその自称詞の変化による感情の変化を表わすことができない。

『象の消滅』で、主人公は初対面で初めて会った女の人に対し、自分のことを「ぼく」と称している。これはベトナム語訳で *tôi* と訳されている。

(13) a. 僕の個人的な意見はネクタイを外さないと出てこないんです。

『象の消滅』(p.56)

b. Ý kiến cá nhân của tôi thì phải tháo cà-vạt ra mới nói được

助詞 一人称代名詞 助詞

結果動詞

意見 個人的 の は 外す ネクタイ 言える

『Con voi biến mất』(p.204)

その後、主人公と女の相手との関係が親しくなるとともに、対話の文法的文末が丁寧体から普通体に切り替えられているが、主人公の自称詞は日本語では同じ「ぼく」であるのに対して、ベトナム語訳では、*tôi* から *anh* (兄) に切り替えられている。

(14) a. 多分としか僕には言えないよ。

『象の消滅』(p.65)

b. Anh chỉ nói được là có lẽ thế thôi.

自 結果動詞 助詞

兄 だけ 言える と 多分

『Con voi biến mất』(p.213)

ここで「待遇レベルの変化」によって説明したい。三牧(1993)は「疎遠表現」と「親密表現」という2つの用語を利用し、疎遠表現から親密表現への変化は話し手と聞き手の間の心理的距離の短縮を示し、親近感を表現したり、相手の緊張を軽減させようとしたりする機能を担っていると述べている(三牧、1993:41)。つまり、親疎関係の変化の印として、日本語では、文体が丁寧体から普通体に変化する。それに対して、ベトナム語では、*tôi* は距離をおく言葉として用いられ、一人称代名詞 *tôi* から親族名称に変化することが心理的距離の短縮を示す機能を担っていると考えられる。

3. 結論

3. 1 上下・親疎関係による非交換・非対称的な呼称

自称詞・対称詞における序列的上下関係による非交換・非対称的な現象は人称代名詞のタブー性がそれにあたる。すなわち、両言語では、目上の人を目下の人のことを人称代名詞や固有名前で呼ぶことができるが、目下的人是目上の人を人称代名詞や名前で呼んではいけない。

心理的親疎関係による非交換・非対称的な現象に関しては、目上の人に対してはもちろん、同等・目下の人に対しても、親密な関係では人称代名詞を使用するが、疎遠な関

係では人称代名詞の使用はなるべく忌避される。

3. 2 自称詞・対称詞を支配する年齢

日本語とベトナム語では、自己・他者を言語的に規定する際、お互いの年齢、性、社会的な地位差といったことを条件として自称詞・対称詞を使い分ける傾向がある。

年齢の要因は、日本語よりベトナム語の自称詞・対称詞の方が年齢との条件に強く支配されている。例えば、名前既知の親族以外の関係では、日本語の場合、年下の若い男性に対しても、年上の若い男性や年上の老人の男性に対しても、「名前+さん」と呼ぶことができる。それに対して、ベトナム語の場合、厳密に年上・年下のような年齢差に従い、年下の若い男性を「em (弟・妹)・名前」、年上の若い男性を老人の男性を「anh (兄) + 名前」「ông (祖父) + 名前」と呼ぶ習慣があるため、初対面には当然ながら相手の年齢を問題としなければならない。

3. 3 感情表現としての自称詞・対称詞

自称詞・対称詞の選択によって、話し手が相手に対してどんな態度・姿勢をとるか、また間接的に話し手が相手をどう評価し、どう待遇するかは両言語の共通点であると言えるものの、特定の人間関係、場面においては、自称詞・対称詞の使用範囲の分かれ方が異なっている。

自称詞・対称詞の変化によって、話し相手に対する感情や心理的な距離などを表すのは両言語に見られるが、変化の頻度については、ベトナム語のほうが日本語よりも高い。なぜならば、日本語は丁寧体や普通体といった動詞や形容詞の語尾変化によって、相手に対する感情や心理的な距離の変化を表すことができるが、ベトナム語は、そのような言語形式の変化がないので、自称詞・対称詞の変化に依存するためと考えられる。

参考文献

1. 神崎高明 (1994) 『日英語代名詞の研究』 研究社出版株式会社
2. 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』 岩波新書
3. 長尾高明 (2005) 『敬語の常識』 溪水社
4. 三輪正 (2000) 『人稱詞と敬語—言語論理的考察』 人文書院
5. 三輪正 (2005) 『一人称二人称と対話』 人文書院
6. 三牧陽子 (1997) 「対話における FTA 補償ストラテジー—対話レベル・シフトとの関係を中心に—」、『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』 創刊号、p.59～78

7. 渡辺友左 (1978) 「親族語彙の全国概観」『日本方言の語彙』三省堂
8. Brown, R. and Gilman (1960) A. The pronouns of power and solidarity, Penguin
9. HyV.Luong (1990)、Discursive Practices and Linguistic meanings:The Vietnamese system of person reference, John Benjamins Publishing Company
10. Đỗ Long (1990) ,Về một khía cạnh biểu hiện của cái tôi với cách tiếp cận ngôn ngữ học, Ngôn ngữ số 3

調査資料

1. 『さくら』、NHK 連続テレビ小説、清水一彦、藤澤浩一、佐藤譲、新田真三、木村明広、三鬼一 希 (演出) 監督者 (2002)、Phuong Mai 訳
2. ファミリーアフェア (1989)、象の消滅 (1989)、めくらやなぎと眠る女 (1999)、ねじまき鳥と火曜日の女たち (1986)、UFO が釧路に降りる (2000)、蜂蜜パイ (2000)、村上春樹著、Phạm Vũ Thịnh 訳
3. Những thiên đường mù (虚構の楽園) (1994)、Dương Thu Hương 著、加藤栄訳
4. Mất biếc (つぶらな瞳) (2004)、Nguyễn Nhật Ánh 著、加藤栄訳